



# 宮沢賢治 春と修羅

# 朗読

Miyazawa Kenji



Mental Sketch Modified  
6枚組朗読CD完全版

宮沢賢治心象スケッチ『春と修羅』朗読●完全版  
ものがたりグループ☆ポランの会 / TTAO



# 〈朗読〉ですって！ — ことばは本当に難しい —

栗原 敦

声に出して読むこと、朗詠や朗唱を除いても、思いつくだけでも、音読、範読、読み聞かせ、朗読、演劇的朗読、語り、などなどさまざまあり方が浮かびます。例えば、視覚に障害をもつ方のための「朗読奉仕」活動というものもあります。今となつては、古い、過ぎ去つた時代の規範としての「標準語」的朗読が思い描かれたこともありましたが、それが手ぶらで認められることもありません。いったん、朗読を目指すなら、これらのどこかと無縁ではられないでしょう。取り進む方々の自覚も、さまざまに問われることになるでしょう。

「そんなことなら言えいい、言わないなら書くのだ」というような言い回しが、宮沢賢治の詩の中にあった記憶があります。普通ではない、激しく声を立てて泣く「慟哭」に、「無声」を重ねた紛れもない矛盾語法の四字熟語「無声慟哭」を創り出した賢治です。表現の可能性を信じれば、より一層、その不可能性にも鋭く目覚めねばなりませんでした。

『心象スケッチ 春と修羅』収録作品全編、詩集に収録しなかつた『春と修羅』補遺も含めての全編を、通して「朗読」するという試みは、まさしく壮図であり壮途でしょう。一気に朗読し通すことは不可能な長丁場の過程に、個々の詩篇毎にある特質、異なつた調子や雰囲気、作品や詩集や詩人への理解、そういったものの認識のベースが深まったり、変化を見せたりすることもあつたかもしれません。

このCDは、そんな揺れも楽しみつつ、聞き手の側でも賢治さんの作品と試みの理解に向けて、壮途を共に歩んで行ける、格好の道連れになっているといえるでしょう。

## 朗読版— 心象スケッチ『春と修羅』 公開の「序」

沢山の人の中からことさらに優れた才能が現れる場合と言うものは多分に恣意的です。その中でも天賦の才能、すなわち天才が現れる場面はかなり唐突です。宮沢賢治は右手花巻に現れました。たとえば宮沢賢治の「童話」を読者として受け

入れた後に、その天才の能力を意識する様になるには少々時間がかかるでしょう。さらに童話よりも文字数の少ない詩や短歌であると、適性のある人は別にして、常人の場合に、ある程度の「読み」の訓練が必要でしょう。しかし、やはりその飛び抜けた天才の度合いが分かり易い例は宮沢賢治が書き連ねた文章だと思ふのです。

この度、賢治の『春と修羅』を音声化して(すなわち方法は朗読と呼ばれるものです)お届けします。

詩を声に出して読もうとすると、まず第一に解の課題を乗り越える必要があります。どの様に読むかは朗読における大きな条件であるし、可能性のある複数の解釈から一つを選ばなければなりません。作つた本人は既に居ませんので確認出来ません。話者が具体的な解釈を持たないまま音声と並べたところで、それは言葉でなく、そもそも相手に意味が通じません。したがって、これらの朗読をお聴きになる皆様においては、それぞれが元来お持ちになつていたイメージと違つたものを聞かされる可能性があり、読みの多くには根拠を

用意しましたが、それとても完璧なものとは言えません。加えて、どうしても隠れた錯誤を拾いきれていないと言ううらみも残ります。十分に意を尽くし許容範囲に収めた結果として示すものです。たとえば長詩「真空浴媒」を独りで黙読して、集中して最後まで読み通す作業は筆者レベルだと、相応の努力が必要でした。結局は、必要な集中が途切れていたかもしれません。どんどんと引き込まれる童話を読むのと違つて、一冊の詩集を集中を切らすこと無しに全てを読むことは案外難しい作業だと思います。したがって、黙読や音読、筆写など様々にある「読む」方法において、朗読作品を制作し聴取する場面は、各々の立場を問わず貴重な経験になるでしょう。

賢治がベートーベンの「運命」のレコードを聴いた時に「『冒頭略』おれも是非共こういうものを書かねばならない。」と言いながら書き出したのが『春と修羅』である。(『兄のトランク』宮沢清六 一九八七年筑摩書房)と言います。

本録音は6枚のCDに分かれていたのでそれぞれの「楽章」を通して聴くには、一度スマホ

に移し替える等の工夫が必要です。通して再生した場合に、5時間近くになります。そこまで通さなくても、何回か聴くうちに「交響」する感じも現れて来ると期待します。

心象スケッチ『春と修羅』が出版された大正十三年(一九二四年)から、そろそろ百年が経過しようとしています。賢治が一冊の書籍にまとめた詩想が百年の時を経て、音声の「ひとくさり」になつた(と思われる)事には、大きな意味があるでしょう。そう言う意味ではあらかじめ運命づけられていた様な気もいたします。

宮沢賢治が生前に唯一公刊した詩集「心象スケッチ『春と修羅』」補遺も含め全作品を朗読音声化しました。形式は6枚組CD及びデータの配信です。また、抜粋版も用意しました。朗読は、賢治童話を語つて十五年の「ものがたりグループ☆ポランの会」の他、歌い手さんの参加も得て構成されています。その他、各方面から識者の協力も得ることが出来ました。

言語は、主として視覚と聴覚より情報を得て理解する道具ですが、賢治の詩として、今回初めて音声化された作品もあろうかと思ひます。是非、お聴きいただき、忌憚なきご意見を賜ることが出来れば幸いです。(制作者)



朗読 彩木香里、鈴木太二、美紗  
うた 竹田恵子/採譜 伊藤寛武(「原体剣舞連」)  
構成・演出 外山 正  
スタジオ エアボイススタジオ/録音・編集 勅使川原泉  
スタジオ 富士ソフト/録音・編集 丹内俊浩  
テキスト底本 宮沢賢治コレクション 筑摩書房  
読み・解釈協力 栗原 敦  
方言協力 伊藤諒子  
協力 宮澤和樹(林風舎)  
画 望月 純  
企画・制作・販売 ものがたりグループ☆ポランの会  
/ TTAO (株) 外山正建築士事務所  
ISBN978-4-9911738-1-3 C1892 ¥7000E POT2102  
定価 7700円(本体価格 7000円+税10%)  
お買い求めは通販他で  
(yamanekohai.thebase.in)、  
※QRコードをご利用下さい。  
2021・5



### 主な制作者の略歴

ものがたりグループ☆ポランの会 ●

二〇〇四年設立。東京を拠点として宮沢賢治の童話の「二人語り」を中心にさまざまなスタイルで表現活動を行う表現者集団。ジャンルを超えて宮沢賢治の世界を発信し続ける。

彩木香里 ● (さいきかほり)

ナレーターとしてNHKをはじめ、番組ナレーション、CM等に出演。舞台や映画の音声ガイド制作にも携わる。ものがたりグループ☆ポランの代表者/株式会社ヘリンポーン所属

外山 正 ● (とよまただし)

一九七四年より宮沢賢治研究会員、二〇〇〇年より二〇一四まで会長、現在は参与。二〇一七年より二〇二〇年まで宮沢賢治学会イーハトーブゼンター副代表理事。

### 本朗読CDの特徴

●朗読の音楽CDです(データCDではありません)。

●宮沢賢治生前出版のいわゆる『春と修羅』第一集全篇及び補遺詩篇を収録しています。

●朗読は賢治童話の語りで十五年のキャリアを誇る「ものがたりグループ☆ポランの会」です。

●テキストは『宮沢賢治コレクション』(筑摩書房)を定本としています。このCDパッケージにテキストは付属しません。

●完全版とは別に十二篇を収めた「抜粋版」を用意しました。また、作品毎のダウンロード版も用意しました。これらのために価格設定がやや複雑になっています。通販のページでご確認ください。

